

ほ育牛の飼養管理について

子牛の良好な発育のメリットは、育成期間を短縮できることと、分娩後の乳生産性が高まることです。
我が家の子牛の発育目標値を設定してみませんか？

試験研究では、初産分娩月齢22ヶ月～24ヶ月で乳生産性が高まると言われています。ここで分娩させるには、13～15ヶ月に授精できる体格にすることが必要です（表1）体を大きくして授精・分娩すると、難産も回避できます。
では、13ヶ月で体格を作るほ乳期飼養のポイントについてお話しします。

表1 各ステージの発育目標

	体高	体重
3ヶ月齢	95cm	99kg
6ヶ月齢	110cm	180kg
初回交配	130cm	350kg
分娩時	140cm	600kg

表2は、初産分娩月齢24ヶ月を目指すプログラムの例です。

粉ミルク（代用乳）の給与

子牛は固形飼料を充分消化できるようにするまで、栄養の大部分をミルクから摂取します（第4胃で消化する）。粉ミルクは指定の給与方法に従い与えましょう。

スターターを一日に1kg以上、または3日続けて0.7kg以上食べられるようになったら離乳のタイミングです。離乳は子牛にとってストレスが大きいので、離乳と施設の移動を同時に行わないようにしましょう。

スターター（人工乳）と水の給与

子牛の第一胃（ルーメン）は、まだミルク以外のものを消化できない状態です。ルーメンの絨毛を発達させ栄養を吸収するために、スターターが消化され産生される酸が必要です。そして水分の少ないスターターを食べるために水の給与が重要です。スターターは、生後2日目から口に入れ、始めは50g、食べることができるようになったら100gずつ増給します（図1）。

乾草の給与

ほ乳期は乾草を給与しなくて良いとの説がありましたが、乾草をほ乳期から与え



図1 ある育成牧場の事例

表2 ほ乳期管理プログラム(例)～初産分娩月齢24ヶ月を目指す～

日齢・月齢	1日目	2日目	3日目	4～7日	30日	60日	3ヶ月	4ヶ月
初乳	出生後なるべく早く、6時間以内に給与 給与量は30以上を1日2回							
粉ミルク (代用乳)				メーカーの基準量を守って給与 定時・定温を守る				
スターター (人工乳)			口の中に入れて慣らし始めは50g、食べきりようになったら100gずつ増給する(3週齢まで300gに制限)。上限は2.5kg/日。1日に1kg以上、または3日続けて0.7kg以上食べきれるようになったら離乳のタイミングです。(42日齢程度)					
育成用配合飼料						徐々に育成用飼料に切り替えていく 2.5～3kg/日		
乾草			良質でやわらかい乾草を細断し給与 (ルーサン乾草でも可) 3週齢まで50g/日制限給与、以降は～2kg/日給与				良質な1番乾草もしくは低水分ラップサイレージを給与	
水			生後2日齢から不断給与(厳寒期は温水に) 不断給与できない場合は、ほ乳後30分以上あけてから水を給与(第4胃への誤飲を防ぐ)					

と比較し、ほ乳期以降も摂取量が増加しルーメンも発達します。そのため、一日50g程度の良質でやわらかい乾草を細断して給与することが推奨されています。
ぜひご参考にしてください！